

定期作況報告

(第5号 平成17年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温および最低気温は各々平年より0.4、0.1 高かった。降水量は平年より95.7 多く、平年対比280%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より7.6時間 多く、平年対比116%であった。夏日（最高気温25 以上）は7日であった。

9月上旬：最高気温は平年より0.2 高く、最低気温は平年より0.5 低かった。降水量は平年より 2.5 多く、平年対比104%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より11.7時間少なく、平年対比77%であった。夏日は3日であった。

9月中旬：最高気温および最低気温はともに平年より1.3 高かった。降水量は平年より14.3mm少なく、平年対比72%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より3.8時間少なく、平年対比92%であった。夏日は2日であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.9	24.5	0.4	23.3	23.1	0.2	21.9	20.6	1.3	23.4	22.8	0.6
最低気温()	14.8	14.7	0.1	12.5	13.0	0.5	11.6	10.3	1.3	13.0	12.7	0.3
平均気温()	19.4	19.2	0.2	17.8	17.7	0.1	16.8	15.2	1.6	18.1	17.4	0.7
降水量()	149.0	53.3	95.7	58.5	56.0	2.5	36.0	50.3	14.3	243.5	159.6	83.9
降水日数(日)	4	4	0	2	5	3	5	5	0	11	14	3
日照時間(h)	56.6	49.0	7.6	39.2	50.9	11.7	41.5	45.3	3.8	137.3	145.2	7.9

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲 : やや不良

事 由： 成熟期は中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」が平年並であったものの、中苗「きらら397」は平年より3日遅かった。登熟日数は中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」が平年並、中苗「きらら397」は平年より5日多かった。

当たり穂数は中苗「きらら397」が平年並であるものの、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は平年に比べ少なかった。一穂粒数は成苗および中苗の「きらら397」で平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」は平年の90%で少なかった。その結果、 当たり粒数は中苗「きらら397」が31,000粒で平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は27,000粒あまりで平年対比82～83%とかなり少なかった。

稔実歩合は平年並であった。 当たり稔実粒数（ 当たり粒数×稔実歩合）は平年対比 81～95%でかなり少なかった。登熟期間の天候は良好であったため登熟歩合が高めに推移した。

各品種・苗とも出穂後40日目の登熟歩合が既に平年の成熟期の登熟歩合より高くなっているものの、 当たり稔実粒数がかなり少ないため減収すると思われる。以上、目下の作況は「やや不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期（月・日）			登熟日数（日）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.14	9.11	3	51	46	5
ほしのゆめ 中苗	9. 8	9. 9	1	45	45	0
きらら397 成苗	9.10	9.10	0	49	48	1

注1)平年値は平成10～16年7カ年のうち平成10年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて早を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	当り穂数（本）				一穂粒数（粒）				当り粒数（×1000粒）			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	698	708	10	99	44.6	46.0	1.4	97	31.1	32.6	1.5	95
ほしのゆめ 中苗	708	775	67	91	39.0	43.1	4.1	90	27.6	33.4	5.8	83
きらら397 成苗	622	744	122	84	43.7	44.7	1.0	98	27.2	33.3	6.1	82
品 種 苗	稔実歩合（%）				当稔実粒数（×1000粒）							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	91.7	91.8	0.1	100	28.5	29.9	1.4	95				
ほしのゆめ 中苗	90.8	91.2	0.4	100	25.1	30.5	5.4	82				
きらら397 成苗	90.9	91.2	0.3	100	24.7	30.4	5.7	81				

注1)平年値は平成10～16年7カ年のうち平成10年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	15.7	12.7	3.0	65.2	50.8	14.4	82.4	(69.9)	-
ほしのゆめ 中苗	21.1	17.6	3.5	66.2	55.2	11.0	85.0	(74.2)	-
きらら397 成苗	12.2	11.0	1.2	62.5	48.6	13.9	82.3	(68.8)	-

注1) 平年値は平成10～16年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋まき小麦：平年より1日早い9月6日に播種を行った。

3) 大豆：平年並

事由：8月下旬以降、気温は平年並みからやや高い程度であり、登熟は順調に進んでいる。両品種とも主茎長、主茎節数は平年より若干下回っているが、分枝数は平年よりやや多い。着莢数は「トヨムスメ」で平年を上回っているが、「トヨコマチ」は平年並みである。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 ()			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	56	61	5	10.0	10.2	0.2	7.3	7.0	0.3
トヨコマチ	58	64	6	10.7	11.0	0.3	6.8	6.2	0.6

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	83	72	11
トヨコマチ	74	73	1

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年及び平成14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : 平年並

事由: 成熟期は平年より一週間程度早かった。主茎長は両品種ともほぼ平年並で、分枝数は「サホロショウズ」は平年並であったが、「エリモショウズ」は平年よりやや少なかった。着莢数は両品種ともほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 成熟期の小豆の生育

品種名	成熟期(月日)			主茎長()			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
サホロショウズ	8.23	9.1	9	59	62	3	6.2	6.2	0
エリモショウズ	9.1	9.6	5	61	62	1	4.9	6.4	1.5

品種名	着莢数(個/株)		
	本年	平年	比較
サホロショウズ	63	61	2
エリモショウズ	62	59	3

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、16年(最凶)、12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 平年並

事由: 「農林1号」は地上部の黄変が若干見られる程度でまだ枯凋期には達していない。試し掘りによる上いも重は平年値より約一割少ない。

「男爵いも」の枯凋期は平年に比べ大幅に遅い9月15日であった。上いも重は平年より327kg多く、また、中以上いも重も平年より365kg多く、平年対比107~109%であった。一方でん粉価は平年より1.0%低かった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	9.15	9.19 8.23	23	5193	5779 4866	327	4415	5123 4050	365

品種名	でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	上いも	中以上	でん粉
農林1号 男爵薯	13.1	15.4 14.1	1.0	628	841 636	8	107	109	99

注1) 平年値は、前7か年中平成11、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

6) てんさい : 平年並

事由: 前節から引き続き生育は順調であり、現在のところ、草丈及び生葉数が平年をやや上回り、根周は概ね平年並みである。

したがって、目下のところ作況は平年並である。

表8 9月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	63.3	60.5	2.8	34.6	32.5	2.1	33.6	34.2	0.6

注 1) 平年値は前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。